

○ 本校の概要

- ・児童数:396、学級数:13、教員数:19
- ・平成23年度より「おおたサイエンススクール」指定校(おおた教育振興プラン 大田区教育委員会 理科教育研究推進校)
- ・平成25年度より 文部科学省教育課程特例校 サイエンス・コミュニケーション科新設
- ・令和3年度は、1月31日に「おおたサイエンススクール研究発表会」を予定。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	評価人数	学校関係者記入欄 コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成を図っている。  論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのまのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。  学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。  他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。  体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。  理科・サイエンスコミュニケーション科を重点として、対話を通して、主体的に問題解決する力を育む授業を行い、科学教育を推進する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。  4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。  4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。  4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。  4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。  4:90%以上が肯定的な回答をした。 3:80%以上が肯定的な回答をした。 2:70%以上が肯定的な回答をした。 1:肯定的な回答が70%未満であった。	4:90%以上 3:80%以上 2:60%以上 1:60%未満	児童アンケートで「学校での学習を通して、自分の力が高まり成長した。」の肯定的な回答の割合(4段階上位2位までの割合)			A B C D	
プラン2 児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。  算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。  学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。  授業改善推進プランを、授業に生かす。  学習のつまずきを把握し、繰り返しの学習を通して、基礎学力の定着を図るため、東京ベーシックドリル診断シート(A、B、C)を、毎学期実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。  4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。  4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。  4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。  4:毎学期実施した。 3:2学期分実施した。 2:1学期分実施した。 1:実施しなかった。	4:95%以上 3:80%以上 2:60%以上 1:60%未満	児童アンケートで「学習が楽しい」の肯定的な回答の割合(4段階上位2位までの割合)			A B C D	
プラン3 子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心を培います。	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心を培います。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。  道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。  学校生活調査(メンタルヘルステック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。  学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。  問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。  「たてわり班」活動を活用した取り組みを計画的に行い、異学年交流の充実を図る。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。  4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。  4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。  4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。  4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおよそ会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。  4:前年度以上に実施した。 3:前年度並みに実施した。 2:前年度より縮小した。 1:継続できないものがあつた。	4:95%以上 3:80%以上 2:60%以上 1:60%未満	児童アンケートで「友達と遊んだり、勉強したりするのが楽しい」の肯定的な回答の割合(4段階上位2位までの割合)			A B C D	
プラン4 スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。  給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。  体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。  健康で活力ある生活を創り出す力を育てるため、「元気いっぱい〇年生」の取り組みを毎学期実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。  4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。  4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。  4:全教員(全学級)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4:95%以上 3:80%以上 2:60%以上 1:60%未満	教員アンケートにて、実施した教員の割合。			A B C D	
プラン5 児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境づくり	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。  授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。  各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。  校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。  サイエンススクールとして、の環境整備を行うとともに、理科・サイエンスコミュニケーション科の授業力向上を図るための研究授業を行う。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。  4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。  4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。  4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。  4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4:85%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	保護者による公開授業アンケートにおいて肯定的な評価の割合(4段階上位2位までの割合)			A B C D	
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に関わった教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作り出す。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に関わった教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作り出す。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。  地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。  学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。  学校行事・授業における児童の学びの様子の理解を図り、家庭・地域と連携して児童を育てるため、平日及び土曜日の授業を公開する。  研究室訪問、国際理解のための交流等、東京工業大学・地域と連携した教育活動を実施する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。  4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。  4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。  4:平日及び土曜日の公開を5回以上実施した。 3:3～4回実施した。 2:1～2回実施した。 1:1回未満の実施であった。  4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4:85%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	保護者アンケートで「学校は、地域、外部の力(学習の専門家)を子供たちの教育活動に活かしている。」の肯定的な評価の割合(4段階上位2位までの割合)			A B C D	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す